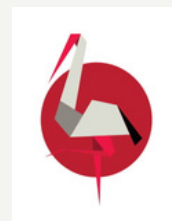


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年10月25日 / Vol. 024



10月17日(月)～10月23日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供
レストランプロジェクト
食材支援

ご支援総額

2022年10月21日までの寄付総額 103,850,910 円

寄付金使用総額 2,707,514.87 zł (約8123万円)

10/17(月)～10/23(日)の期間中の寄附金使用額

35,348.19 zł(約106万円)



～継続支援のお願い～

ロシアによる侵攻が長引く中で、当初の予定より長い期間での支援の必要が出てきています。

現時点でいただいた寄付の約8割を使っており、このままでは厳しい冬の途中で支援が終わってしまう見込みとなっております。

避難民の方々が冬を乗り切り笑顔で春を迎えられるように、どうか皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。



活動内容

支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所への買い出しを実施。月曜日に1週間分の物資の買い出しに出向いたが、すでに多くの人が支援所入り口に列を成している状況となっていた。

カリタスの支援所は3月からクラクフ中央駅構内に設置されていたが、テナントの入居予定となっており、移転先を探しているという。構内での新たな拠点をを見つけることが難しい場合、福田会でも支援をしている Peron 4 というボランティア団体の避難所に場所借りをする形で、来月からの物資の提供が行われる可能性があるとのこと。



レストランプロジェクト

市内のレストランにて引き続きウクライナ料理の提供を行う。週の後半から気温が下がったため、提供されるウクライナのスープが尚更心も体も温めてくれるとの評判が聞かれた。



食材支援

27家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け必要な食材を各自購入してもらう形で実施。

家に子どもを残して買い物に来ている母親から、食材購入の日である毎週金曜日を楽しみにしているとの話を聞いた。またスーパーが実施している、スタンプを集めるとぬいぐるみをもらえるキャンペーンに参加をし、毎週貯めたスタンプでぬいぐるみを子どものために受け取っている母親の姿も見られた。





現地の動向

ポーランドではサービス産業の人手不足が深刻化している。大手コンビニチェーンのŻabka、スーパー、レストラン、小売店では従業員募集の張り紙が店頭に掲げられ、人員の確保が難しくなっているのが窺える。

そんな中、ウクライナ避難民の中では仕事が見つからないとの声が相次ぐ。言葉の壁が大きいとは言われつつも侵攻開始から8ヶ月が経とうとする今、言語習得に励みポーランド語での日常会話に問題がない避難民とそうでない者の差が激しくなっている。

ポーランド政府は、政府から提供されている避難所を一部有料とする計画を打ち出した。高齢者や障害を持つ人は対象から外れるが、健康な人には少しでも社会に統合をしてほしいという政府の声が漏れ聞こえているように感じる。同計画は当初11月開始との話も聞かれたが、見直しが入り2023年年始からの見方が強まっている。



10月頭に訪問したクラクフ市の運営するシェルターの様子